

読む力のトレーニング レベル1 「文節と係り受け」

<目次>

[前編]	1-1	が／は／の／を	①～⑧
	1-2	に／へ／で	①～⑧
	1-3	な／い／く	①～⑧

今回のトレーニングは
この部分の練習になります。

[後編]	1-4	た／ない／ている	①～⑧
	1-5	も／と／や	①～⑧
	1-6	接続助詞と副助詞	①～⑧

読む力のトレーニングのレベル1は、第1章から第6章までで構成されており、各章には大問が①から⑧までの計8問、用意されています。今回お送りした前編は、第1章から第3章のトレーニング（計24題）に該当します。

1週間に1題ずつ取り組んだ場合は24週（約半年）、1日に1題ずつ取り組んだ場合は24日（約1ヶ月）で終わる計算になります。数をこなすことよりも、じっくりと意識を高めていくことが大切になるので、1日に何題も解くよりも、定期的にコツコツと取り組む方が効果的です。

前編のトレーニングが終わった方には後編のトレーニングもご案内しておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、8題ずつでは演習量が足りないという方のために、追加の問題集もご用意しておりますので、是非そちらもご活用ください。

ガッカンプログラムのトレーニングが、お子様の学習のお役に立てることを願っています。

ガッカンプログラム開発者
佐藤壮夫

ねらい

読むことが苦手な子供のほとんどは、知っている単語をつなげて自分で勝手にストーリーを作るような読み方をしています。例えば、以下のような文があったとします。

「ごりらのりんごを食べた。」

読み間違いの多い子は、「ごりら・りんご・食べた」という意味のわかる単語（自立語）に意識をとられてしまい、自分のこれまでの経験と照らし合わせて「ごりらがりんごを食べた。」のように、自分の都合の良い解釈に読み替えてしまいます。

文の内容を何となく理解するのではなく、はっきりと正しく読み取るためには、単語の後ろについているひらがな（付属語）に注意を向けられるかどうか大切です。このひらがなを意識することができれば、「ごりらとりんごを食べた。」や「ごりらをりんごが食べた。」などのように文が変わったとしても、決して読み間違えることはありません。

レベル1の読む力を伸ばすトレーニングでは、単語だけを読む読み方（「ごりら・りんご・食べた」）ではなく、後ろについているひらがなまで含めた意味のかたまりで言葉を捉える読み方（「ごりらの・りんごを・食べた」）を身につけることをねらいとしています。

単語の後ろにつくひらがなについては以下の順番で学習を進めていきます。

第1章：助詞の「が／は／の／を」がつく言葉について練習します。

第2章：助詞の「に／へ／で」がつく言葉について練習します。

第3章：「な／い／く」で終わる形容詞について練習します。

練習回数を重ねるごとに、取り扱う文を構成する文節の数や種類は徐々に多く、そして複雑になるように設計されています。スモールステップで無理なく、着実に力を伸ばしていきましょう。

1

(1) ぼくはねこをかっています。

(2) ねこのなまえはたまです。

(3) ゆうしょくはおとうさんがつくりました。

(4) つくえのうえをかたづけました。

(5) ともだちがかさをさしています。

①

(1) ぼくは | ねこを | かけています。
→ →

(2) ねこの | なまえは | たまです。
→ →

(3) ゆうしょくは | おとうさんが | つくりました。
→ →

(4) つくえの | うえを | かたづけました。
→ →

(5) ともだちが | かさを | さしています。
→ →

②

(1) あなたは | りすを | かけています。
→ →

(2) りすの | なまえは | ちびです。
→ →

(3) ちょうしょくは | おにいさんが | つくりました。
→ →

(4) へやの | なかを | かたづけました。
→ →

(5) ともだちが | てを | ふっています。
→ →